

姫路市 下水道事業

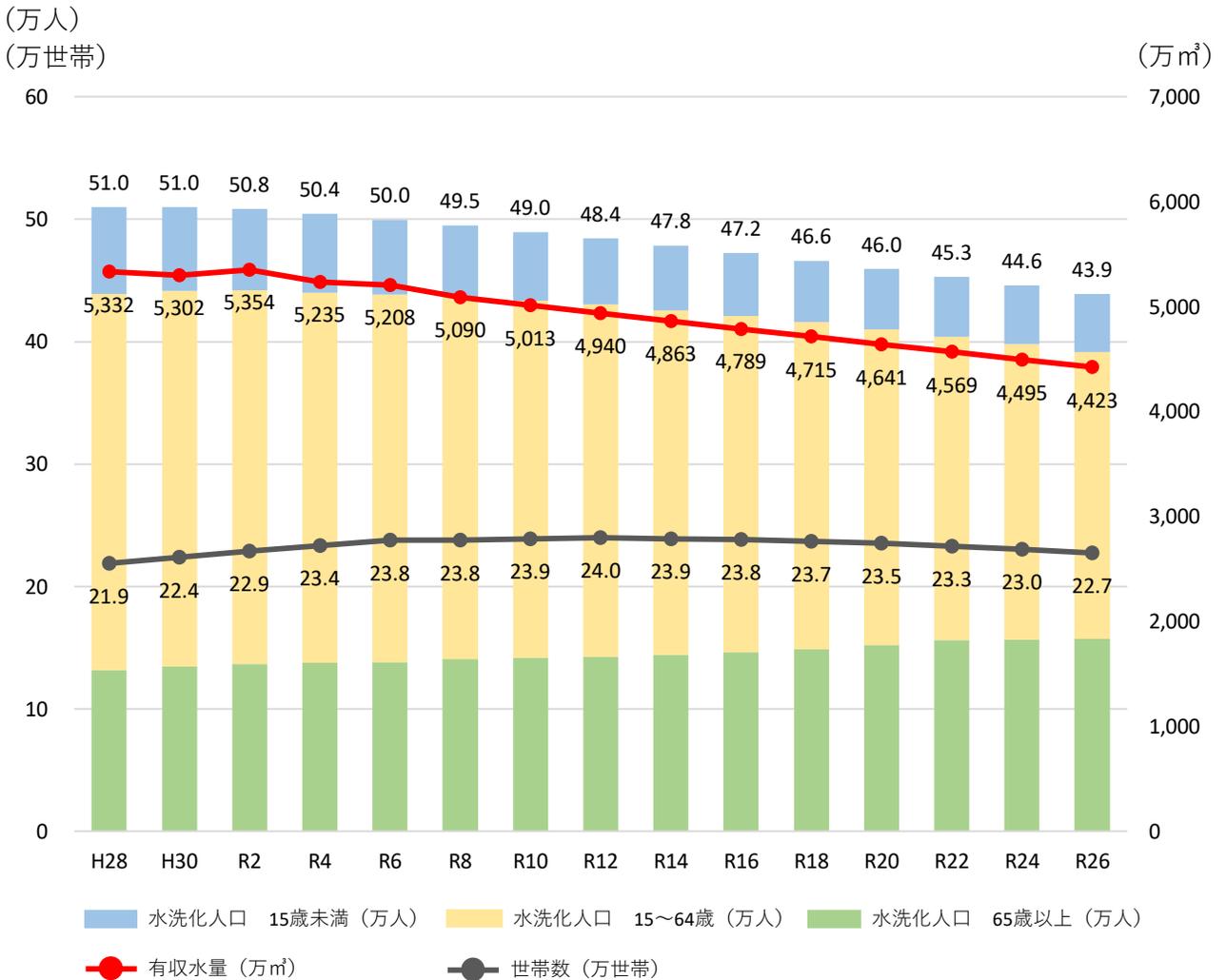
令和 6 年度決算と財政状況



目次

1. 経営の背景
2. 財務諸表
3. 今後の見通し

令和 8 年 2 月 16 日
姫路市上下水道局



● 水洗化人口の見通し (H28・2016年～R26・2044年)

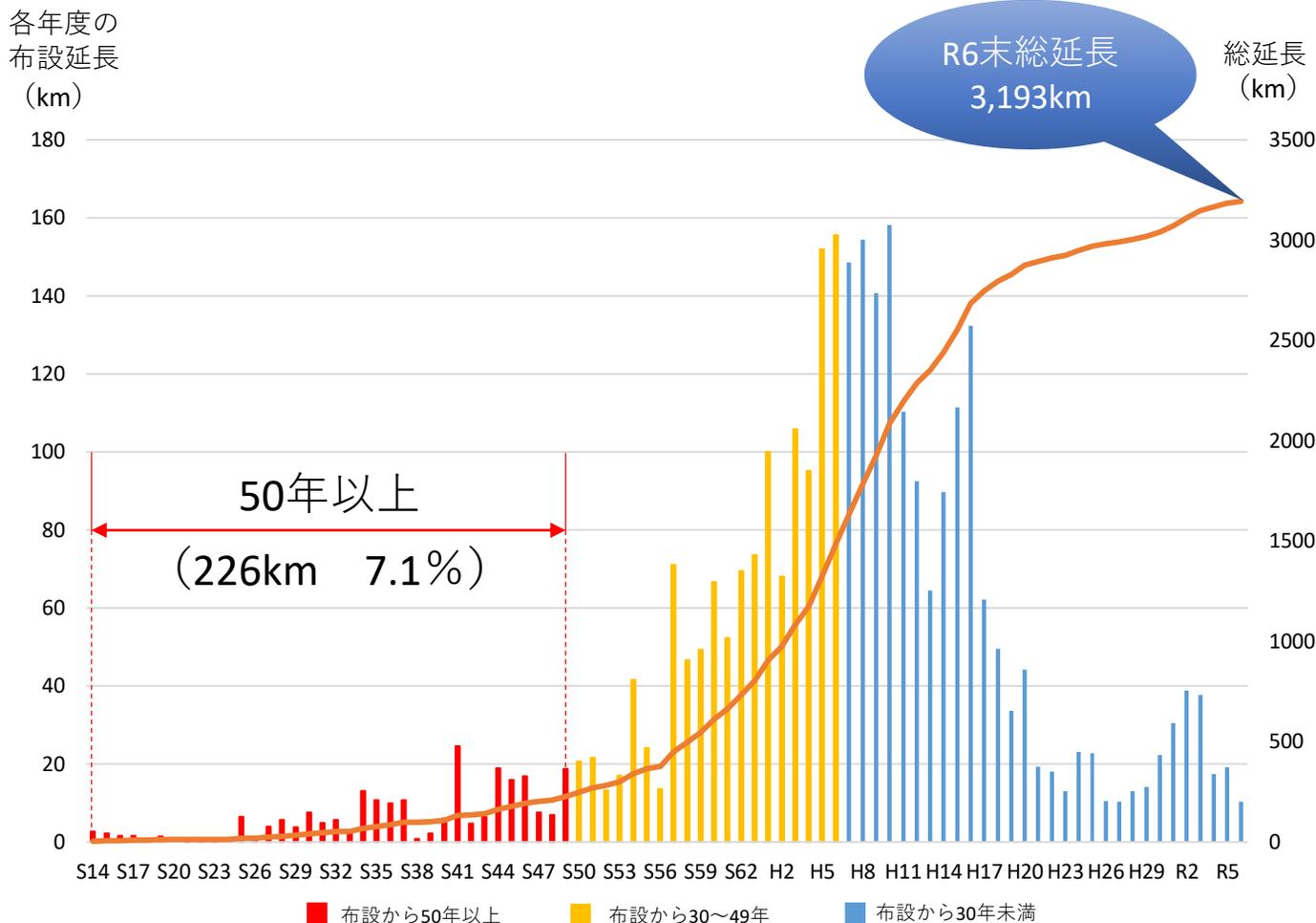
- ・ R6年度に50.0万人であった水洗化人口は、人口減少に伴い、20年後のR26年度には43.9万人となり、約6.1万人減少する見込み (約12%の減)
- ・ 年代別に全人口に占める割合を見ると、15歳未満の年少者層はR6：12.2%→R26：10.8%、15～64歳の生産年齢者層はR6：60.1%→53.4%と減少するのに対し、65歳以上の高齢者層ではR6：27.6%→R26：35.8%に増加する見込み

● 有収水量の見通し (H28・2016年～R26・2044年)

- ・ 水洗化人口の減少、節水機器の普及、節水意識の高まりに伴い減少していく見通し
- ・ R6年度に5,208万m³であった有収水量は、20年後のR26年度には4,423万m³となり、約785万m³減少する見込み (約15%の減少)

● 水需要の減少に伴う経営への影響

- ・ 人口減少等に伴い、下水道使用料収入は長期にわたって減少していく
- ・ 世帯数は人口ほどには減少しないことから、供給の必要性は大きく減少しない



● 管渠の布設状況（～R6・2024年）

- ・ R6年度末現在、下水道管渠の総延長は3,193km
- ・ 布設から50年以上経過している管渠は全体の7.1%、226km（ほぼコンクリート管）

● 今後の見通し

- ・ 昭和の終わりから平成初期にかけて集中的に管渠整備を実施（S58・1983年～H14・2002年 約2,000km、全体の62.4%）
- ・ 仮に今後管渠の更生を実施しなかった場合、20年後のR26年度末時点で布設から50年以上経過する管渠は、全体の46.3%、1,481kmまで増加する（1,255km増）
- ・ ただし、増加する1,255kmのうち、劣化しやすいコンクリート管等は290km（23.1%）であり、残りのほとんどは劣化しにくい塩ビ管であることから、50年を経過したからといって全ての管渠について早急に更生が必要となるわけではない
- ・ 現在、姫路市にはコンクリート管が659kmあり、ストックマネジメント計画による優先順位に基づいてスクリーニング調査を行っているところである。うち調査済みの管渠は183km、調査の結果緊急度Ⅱ以上となった管渠は34kmであり、優先順位に基づいて更生を行っていくとともに、未調査の475kmについても年間100kmのペースで調査を行う
- ・ 八潮市の陥没事故を受けて国土交通省の要請により実施している緊急点検（11.9km）では、優先実施箇所では問題のある管渠はなかった。それ以外の箇所については現在も調査中であり、今年度中に調査を完了する予定である

損益計算書

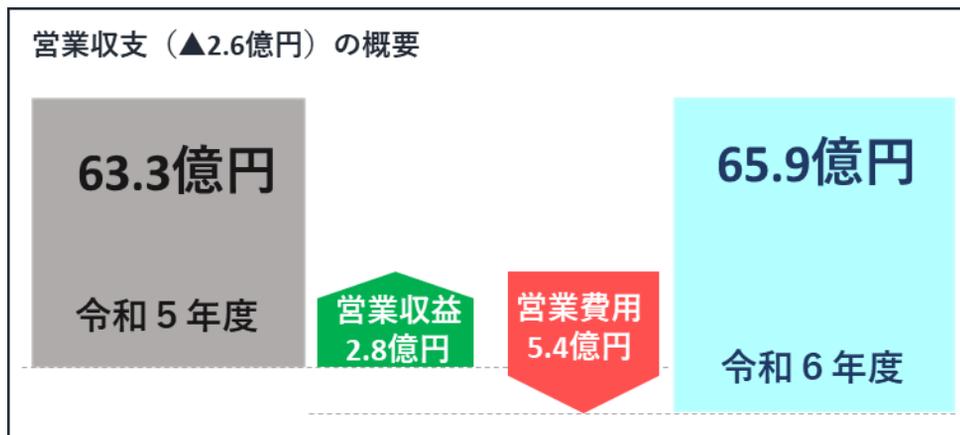
… 1年間の収益（収入）と費用（支出）を対比し、その差額として
利益を示すもの

※ 令和6年4月1日～令和7年3月31日

科 目	令和5年度	令和6年度
① 営業収益	105億 7,020万	108億 5,412万
下水道使用料	87億 5,140万	88億 6,516万
国・県補助金	5,676万	5,953万
一般会計繰入金（雨水処理費）	16億 8,908万	18億 5,816万
その他の営業収益	7,296万	7,127万
② 営業費用	168億 9,684万	174億 4,329万
維持管理費	64億 4,019万	67億 4,253万
減価償却費及び資産減耗費	104億 5,665万	107億 76万
③ 営業利益（△の場合は損失） ①－②	△63億 2,664万	△65億 8,917万
④ 営業外収益	77億 7,171万	79億 2,027万
一般会計繰入金（汚水処理費 基準内）	28億 6,360万	27億 89万
一般会計繰入金（汚水処理費 基準外）	8億 2,058万	10億 1,070万
長期前受金戻入	40億 5,381万	41億 5,473万
その他の営業外収益	3,372万	5,395万
⑤ 営業外費用	14億 4,549万	13億 3,122万
支払利息	13億 3,031万	12億 462万
雑支出	1億 1,518万	1億 2,660万
⑥ 経常利益（△の場合は損失） ③＋④－⑤	△42万	△12万
⑦ 特別利益	42万	12万
⑧ 特別損失	0	0
⑨ 当年度純利益 ⑥＋⑦－⑧	0	0
⑩ 前年度繰越利益剰余金	1億 9,011万	1億 9,011万
⑪ その他未処分利益剰余金変動額	3,000万	3,000万
⑫ 当年度未処分利益剰余金 ⑨＋⑩＋⑪	2億 2,011万	2億 2,011万

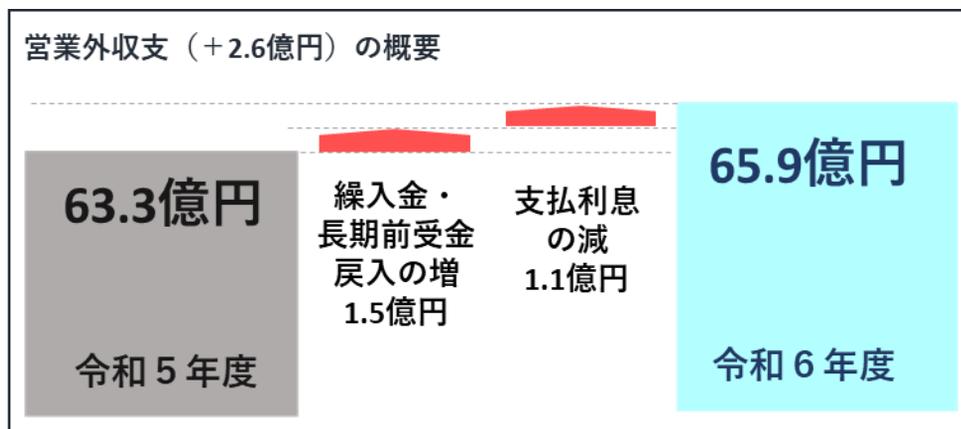
● 営業収支 65.9億円の赤字

- ・下水道サービスを通じて発生した収支は65.9億円の赤字。下水道使用料や一般会計雨水繰入金（収益）の増を、維持管理費や減価償却費等（費用）の増が上回り、赤字額は前年度比で2.6億円増加



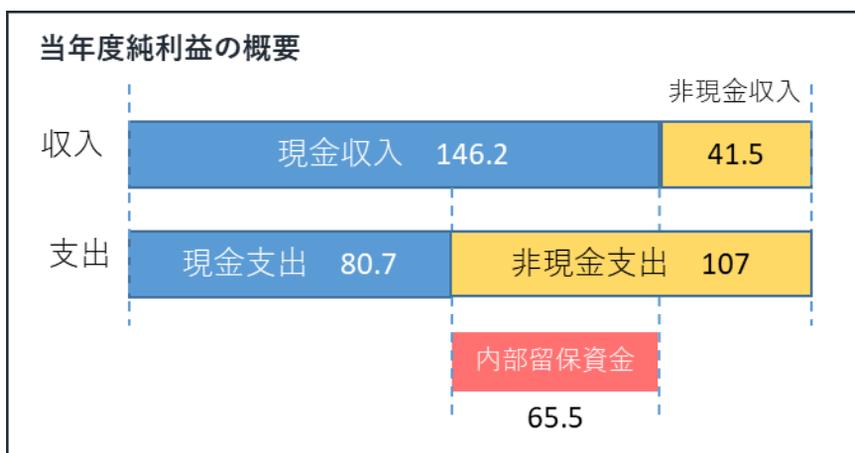
● 営業外収支 65.9億円の黒字

- ・一般会計からの繰入金や長期前受金戻入の増の他、企業債の償還が進んだことによる支払利息の減少により、営業外収支の黒字額は前年度比で2.6億円増加



● 当年度純利益 0円 ※営業収支 + 営業外収支 + 特別損益

- ・下水道使用料等の現金収入は146.2億円、非現金収入（長期前受金戻入）は41.5億円
- ・維持管理費等の現金支出は80.7億円、減価償却費等の非現金支出は107億円
- ・現金収入－現金支出の差額65.5億円は、内部留保資金として投資事業等の資金となる



貸借対照表

期末時点における、資金の調達状況や運用状況といった財政状態を示すもので、資産、負債、資本から構成される

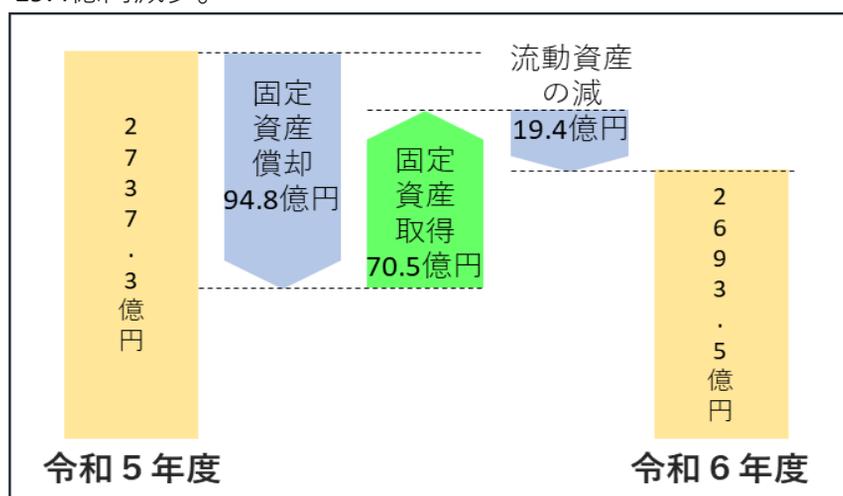
※未処分利益剰余金等処分後

科目	令和5年度	令和6年度
(資産の部)		
固定資産	2,649億 6,996万	2,625億 4,246万
有形固定資産	2,583億 2,499万	2,563億 9,774万
土地	128億 6,206万	129億 8,031万
償却資産	3,709億 7,367万	3,780億 7,302万
減価償却累計額	△1,308億 4,138万	△1,403億 2,173万
建設仮勘定	53億 3,064万	56億 6,614万
無形固定資産	66億 3,661万	61億 3,693万
投資その他の資産	836万	779万
投資有価証券	0	0
基金	0	0
出資金・貸付金	836万	779万
流動資産	87億 5,645万	68億 740万
現金・預金	71億 9,293万	52億 9,478万
未収金	12億 4,575万	12億 2,886万
貸倒引当金	△760万	△720万
貯蔵品	2,195万	2,384万
その他流動資産	3億 342万	2億 6,712万
資産合計	2,737億 2,641万	2,693億 4,986万

科目	令和5年度	令和6年度
(負債の部)		
固定負債	749億 8,383万	715億 4,584万
企業債	749億 8,383万	715億 4,584万
引当金	0	0
退職給付	0	0
特別修繕	0	0
流動負債	158億 4,785万	129億 4,011万
企業債	91億 7,088万	81億 8,183万
未払金	65億 8,256万	46億 5,022万
引当金	6,064万	6,094万
賞与等	6,064万	6,094万
特別修繕	0	0
その他流動負債	3,377万	4,712万
繰延収益	946億 9,909万	938億 915万
長期前受金	1,498億 4,908万	1,527億 275万
収益化累計額	△551億 4,999万	△588億 9,360万
長期前受金仮勘定	0	0
負債合計	1,855億 3,077万	1,782億 9,510万
(資本の部)		
資本金	794億 3,593万	822億 6,593万
剰余金	87億 5,971万	87億 8,883万
資本剰余金	85億 1,960万	85億 7,872万
利益剰余金	2億 4,011万	2億 1,011万
資本合計	881億 9,564万	910億 5,476万
負債・資本合計	2,737億 2,641万	2,693億 4,986万

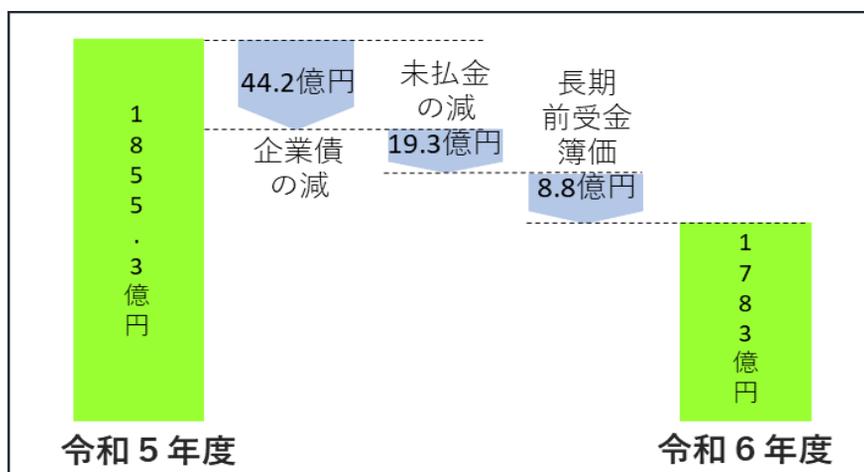
● 資産の部 前年度比43.8億円の減

- 投資事業の実施により固定資産を70.5億円新規計上したが、減価償却により固定資産簿価が94.8億円減少。流動資産は、未払金の減少等によって現金・預金が19億円減少したこと等により19.4億円減少。



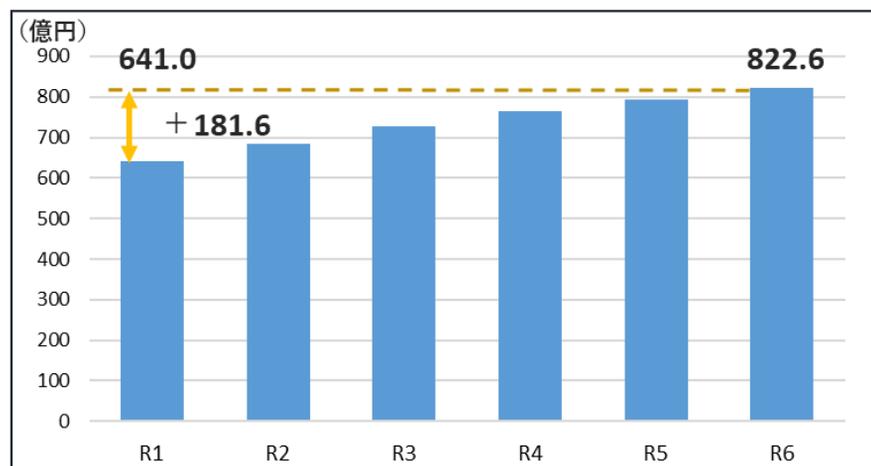
● 負債の部 前年度比72.3億円の減

- 企業債の償還や未払金の減少、長期前受金の収益化などにより、前年度比で72.3億円の減少



● 資本の部

- 一般会計からの繰入金等を原資とする資本金は、令和6年度決算時点で822.6億円
- 固定資産の取得とともに資本金が増加してきたが、今後は資産の更新や維持管理に費用が必要となる



キャッシュフロー計算書

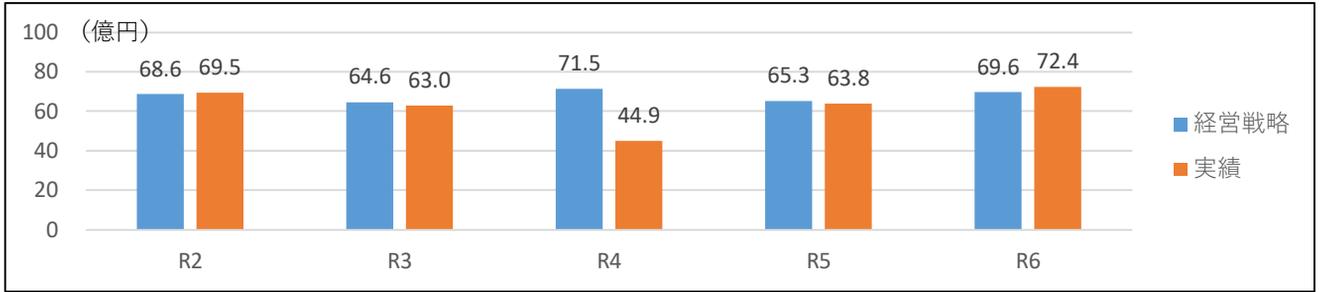
… 1年間の現金（キャッシュ）の動きを把握するためのもの

※ 令和6年4月1日～令和7年3月31日

科 目	令和5年度	令和6年度
① 業務活動によるキャッシュ・フロー (下水道サービスでどれだけ現金を生み出したかを示す指標)		
当年度純利益	0	0
減価償却費等及び長期前受金戻入	64億 281万	65億 4,599万
減損損失	0	0
各種引当金の増減額	△80万	△53万
業務活動による未収金の増減額	2,982万	807万
業務活動による未払金の増減額	△5,499万	6億 7,014万
その他	362万	1,381万
	63億 8,046万	72億 3,748万
② 投資活動によるキャッシュ・フロー (投資活動による現金の出入りを示す指標)		
固定資産の取得・売却	△77億 8,102万	△94億 2,413万
国庫補助金、分担金等による収入・支出	40億 4,739万	30億 9,296万
投資活動による収入・支出	19万	65万
その他の収入・支出	0	0
	△37億 3,344万	△63億 3,052万
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー (営業活動や投資活動のための資金調達や償還による現金の出入りを示す指標)		
建設改良企業債による収入	53億 8,420万	47億 2,840万
建設改良企業債の償還による支出	△81億 5,255万	△101億 9,278万
他会計からの出資による収入	32億 1,655万	26億 5,927万
	4億 4,820万	△28億 511万
資金増減額	30億 9,522万	△18億 9,815万
資金期首残高	40億 9,771万	71億 9,293万
資金期末残高（資金増減額+資金期首残高）	71億 9,293万	52億 9,478万

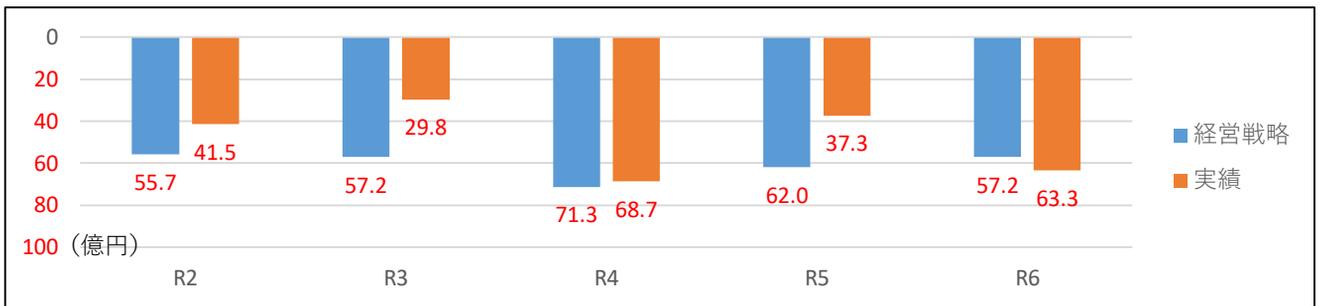
● 業務活動によるキャッシュフロー

- ・ 減価償却費や未払金の増により、対年度比では8.6億円のプラス



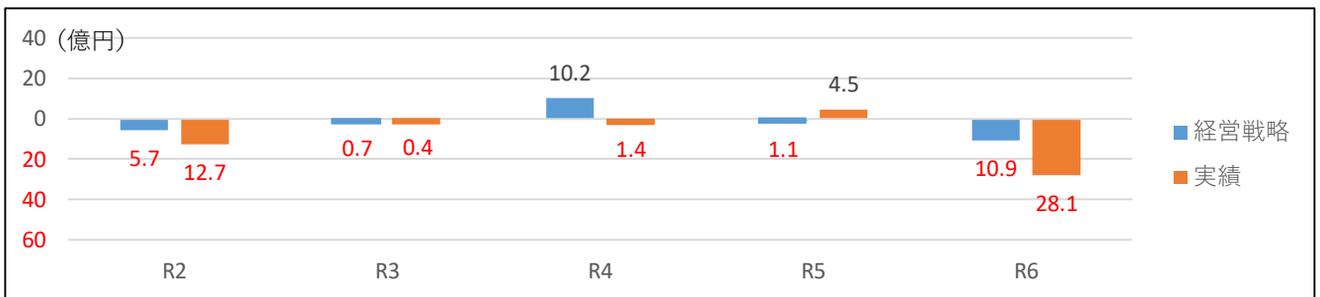
● 投資活動によるキャッシュフロー

- ・ 国庫補助金等の減により、対前年度比では26.0億円のマイナス
- ・ 直近5年間の累積額を見ると旧経営戦略の投資計画を実績が下回った



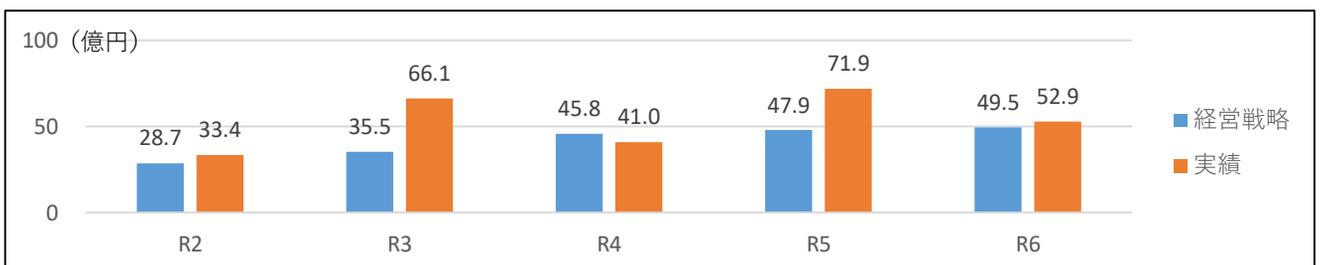
● 財務活動によるキャッシュフロー

- ・ 令和6年度は28億円のマイナスだが、これは令和5年度末日が休日となり令和5年度末の企業債の償還が令和6年度にずれこんだため



● 資金期末残高

- ・ 令和6年度末資金残高は52.9億円で旧経営戦略の予定より3.4億円多い
- ・ 直近5年間では、投資活動が全体的に遅れ気味であり、企業債の発行も少なくなった
- ・ 令和6年度末の未払金は46.5億円となっており、余裕資金はほぼない



企業債残高と支払利息の見通し

①

②

③ 今後の見通し

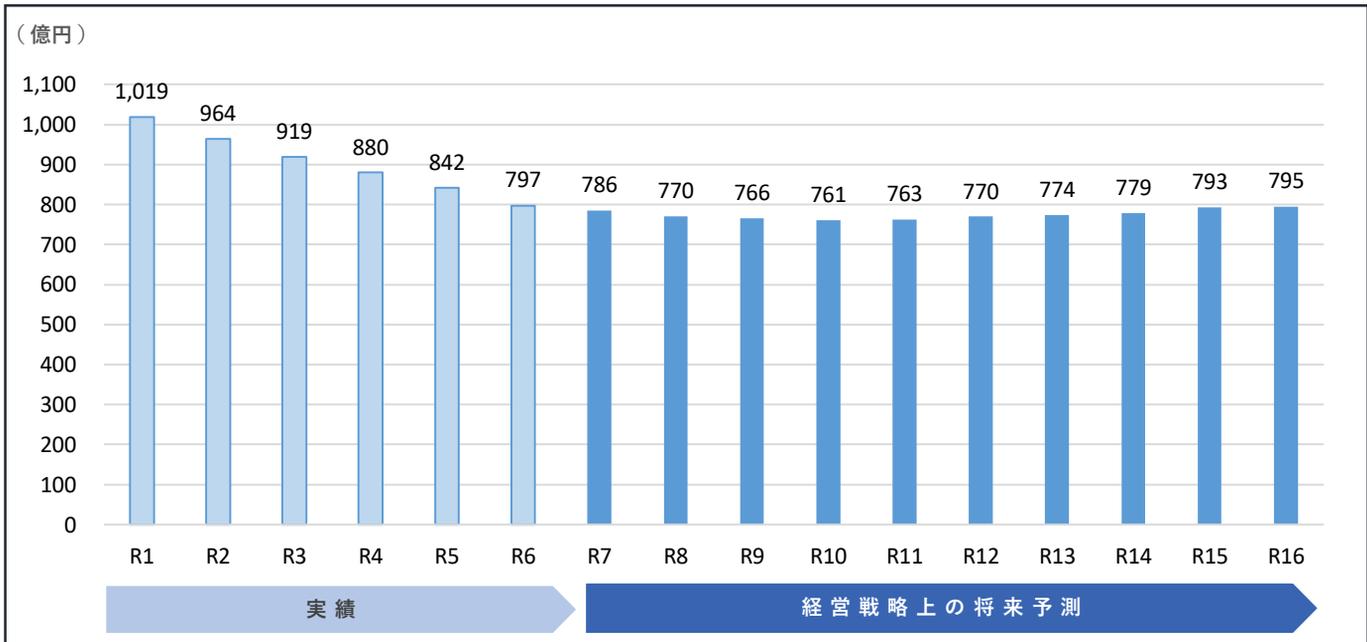
● 企業債残高のこれまでの推移（～R6・2024年）

- ・昭和の終わりから平成の初期にかけて集中的に管渠を整備するために多額の企業債を発行したが、償還が進むとともに企業債残高は年々減少

※H26年度末 1,410.3億円 → R6年度末 797.3億円（10年間で613億円の減）

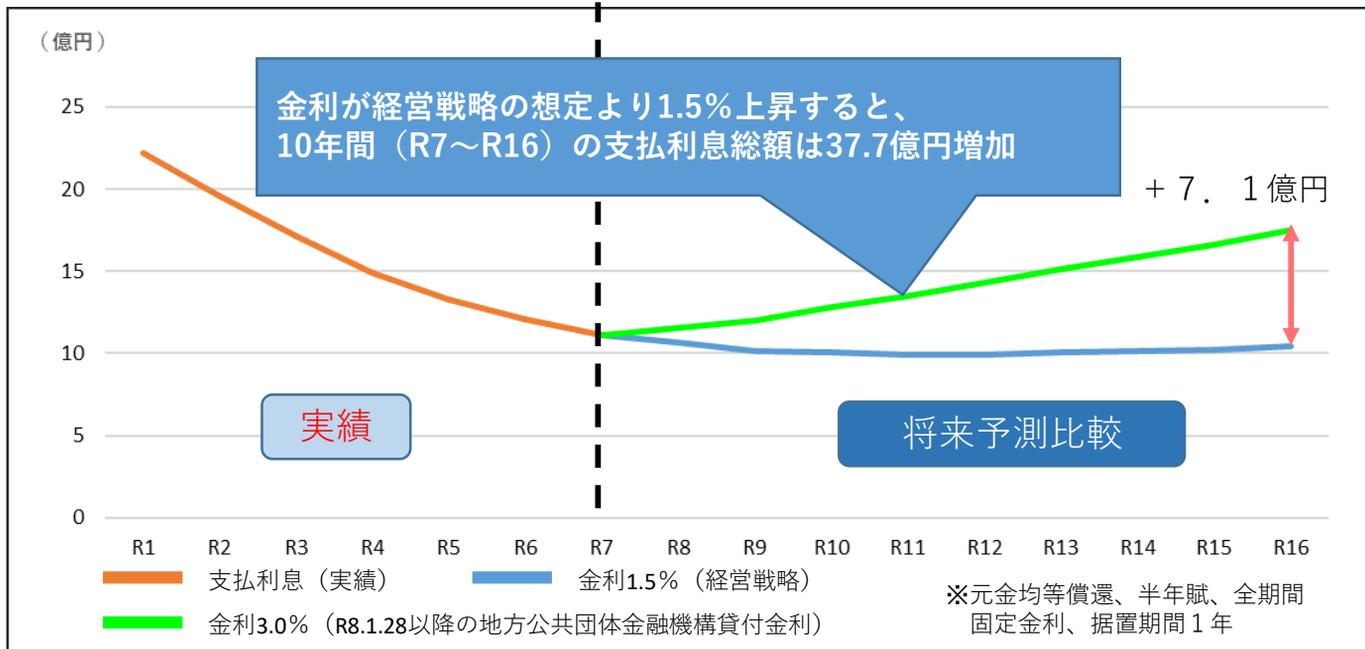
● 企業債残高の今後の見通し（R7・2025年～R16・2034年）

- ・今後は老朽化対策や耐震化などの投資事業量の増加が見込まれることから、企業債の発行額が増加し、企業債残高は800億円前後を推移していく見込み



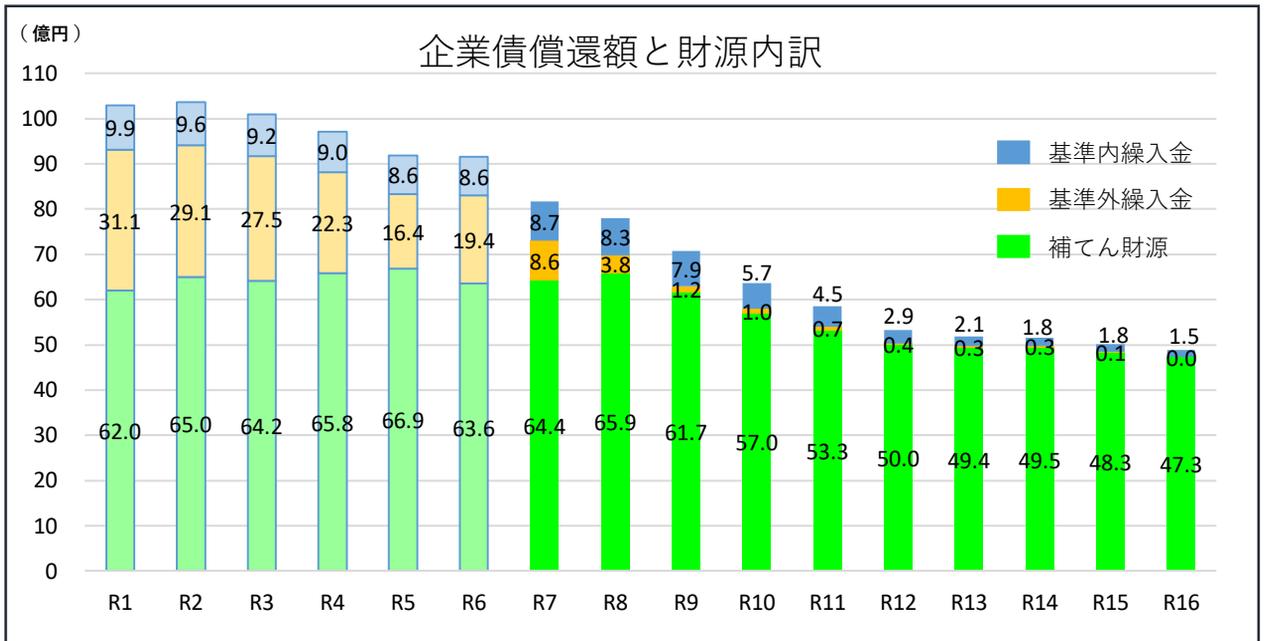
● 支払利息の推移と今後の見通し（R7・2025年～R16・2034年）

- ・金利が経営戦略の想定を上回った場合は、下水道事業はより一層厳しい経営環境を迎えることが見込まれる



● 企業債償還に係る繰入金の見通し（～R16・2034年）

- ・ 企業債残高の減少に伴い、年度ごとの企業債償還額も減少
- ・ 企業債償還に係る基準外繰入金はR15年度が最終となる予定（補てん財源不足の解消）



● 収益的収入における繰入金の見通し（～R16・2034年）

- ・ 物価上昇に伴う経費の増加や、投資事業の増に伴う資本費の増加により、収益的収入における繰入金は増加していく予定
- ・ 今後、使用料改定を行わない場合、分流式下水道に係る繰入金が収益的収入全体に占める割合は年々上昇
- ・ 今後の費用増を全て繰入金で賄うのは負担の公平性の観点から適切ではないため、使用者負担とのバランスを検討していく必要がある

